

公益財団法人 正光会 宇和島病院広報誌

# UWAJIMA

2015  
Spring  
Vol.01

## 地域に根ざす医療機関を目指して

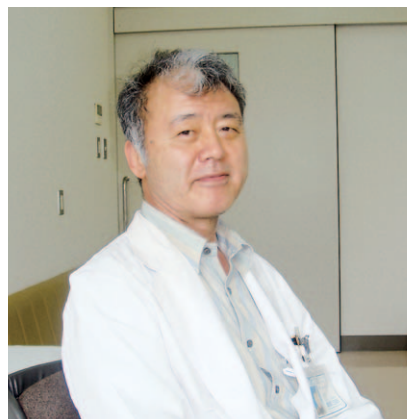
地域医療を支え、心に“寄り添う”医療を皆さんに  
「認知症疾患医療センター」からのお知らせ



Shōkōkai

公益財団法人 正光会  
宇和島病院

## 地域医療を支え、 心に“寄り添う”医療を皆さんに



公益財団法人 正光会 宇和島病院

院長 渡部 三郎

今年度の正光会 宇和島病院の事業計画について、

- ①認知症ケアの質の向上へ
  - ②障害者の地域生活支援
  - ③医療の安全と質の確保
- の3本柱を掲げました。

現在、65歳以上の20%が認知症を発症されるといわれています。高齢化率は宇和島市で34.3%と、県内でも高い方といわざるをえません。そのなかで単身のお年寄りが平成22年国勢調査で5,000人前後、複身(夫婦二人)で住んでいる方が3,700世帯くらい。約1万3,000人がお一人またはご夫婦だけと、宇和島市の人口約8万人のうち、1万数千人が高齢者世帯なのです。そのうち、単身高齢者で認知症の方が約1,000人はいらっしゃるが予想されます。団塊世代の増加に伴い、今後は介護が必要な認知症の方も増えていくでしょう。

精神科医療だけでは認知症は対応できません。地域全体で、つまり“かかりつけ医”が認知症を特別な病気ではなく、普通の病気と同様に診ていく必要があります。このような現状のなかで、宇和島病院は「認知症ケアの質の向上へ」を目指し、「愛媛県地域拠点型認知症疾患医療センター(以下:センター)」が地域を支える先導の役割を担う所存です。たいていは65歳を過ぎると、一つや二つの不調があり、すでに介護保険サービスなどに関わりを持っているでしょう。その方たちが認知症だからと既存の関わりをすべて切って精神科医療へまかせてしまうのではなく、かかりつけ医が継続的に診て、私ども専門機関と一緒にケアしていく。入院したとしても1か月くらいで大きな症状(BPSD)が落ち着いたら、また地域のみみなで診ていく。既存の人間関係、地域のネットワークを保ちな

がら、そのなかに私たちセンターが入るという位置に立ち、どのような方でも支えられる地域の仕組みをつくっていきます。一番大きな課題は、かかりつけ医と当院、宇和島圏域の市町、介護施設が連携し、地域全体での対応力を上げていくこと。当院が認知症をケアするための精神科医療の質の向上を図るのはもちろん、スタッフが積極的に地域へ出て、地域医療を支援していくというところに役割があります。

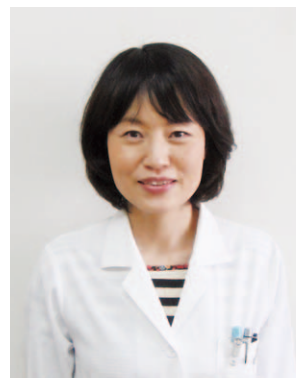
センターに来ていただいた方はきちんと診て、症状が改善すれば地域へお帰する。その“お帰する場”に、まだ多くの課題を残しています。「障害者の地域生活支援」についても同様で、障害者に対する対応が日本では非常に遅れています。精神障害、統合失調症は青年期に発症することが多いのですが、親御さんが50~60代でお子さんが病気になり、長期入院した後、高齢になった親御さんのもとへ帰れるのか。医療は外来で充分継続できますが、障害を持っている方が地域で生活できる新たな場をつくるのが急務であり、そこに地域の理解が必要となります。これに関しては10年程前から、当院のある柿原一区で取り組んでおり、自治会に入会させていただいたり、住民の皆さんと一緒に一泊旅行に行ってくださいたりと、手応えも感じているところです。柿原一区のような輪が広がっていくよう、また適正な地域医療が行えるよう、行政と連携して取り組んでいきたいと考えています。

また「医療の安全と質の確保」については、いわゆる“家族的な支援”を強化していく所存です。小さな問題を見逃さない体制づくり、擬似家族として、そして精神科医療の専門家として、患者さんの心に寄り添えるスタッフの育成に、今後も努めていきます。



## IMRについて

精神科医 渡部 亜矢子



IMRとは、「illness management and recovery」の略で、EBP（米国政府が科学的根拠に基づいていると認めた治療の実践）の一つです。統合失調症と重度の気分障害を対象にした心理教育プログラムで、当プログラムの実施により、①症状について正しい知識を身につける、②再発と入院が減る、③症状による苦痛が減る、④服薬を確実にすることができるようになりますといわれています。

このプログラムの特徴は、何といても「リカバリー」理論に基づいていることでしょう。リカバリーとは、「症状や障害が無くなることよりも、本人が満足できる意義ある人生を送ること」を目標にするものです。あくまで当事者の選択が最優先され、治療者はお互いの知識を尊重し合いつつ、プログラムを進めていくことが求められます。具体的には、9つのテーマについて、動機づけ技法、認知行動療法等を駆使しながら、約42セッションを行います。

当院では、平成26年5月より当プログラムをデイケアで週一回（60分）実施しています。対象は20～40歳代の統合失調症の方8名で、リーダー、コリーダーを医師4名、看護師2名が交替で務めています。ほとんどの方が欠席することなく続けてられており、治療者も当事者の方々より多くのことを学びつつ、楽しい時間を過ごしています。



## 看護部だより

### 地域社会とともに歩む看護師を育成する

私たちは、すべての人々の基本的人権を尊重し、安全・安心かつ良質な精神科医療・福祉サービスの提供を基本として、障害のある方が地域のなかで一住民として生活ができるよう、地域一体型の医療（支援）を多職種と協働して取り組んでいます。

精神科でのチーム医療においては、専門職一人ひとりが治療者である意味合いが大きく、精神科看護師のニーズも多様化しています。そのため、専門性の高い看護を提供できるよう、人材育成は最重要項目に挙げて取り組んでいるところです。定期的な院内勉強会の実施、院外研修への参加や認



副総看護長 盛澤 由枝



土居 昭人

定看護師等の資格取得を積極的に支援するなど、看護（師）の質を高め、地域社会のニーズに合ったサービスを提供することで、患者・家族・地域から選択される病院づくりを目指しています。

# 認知症疾患医療センターからのお知らせ

## 「認知症疾患医療センター」をご利用ください

平成25年から、県の委託を受けて事業を行っています。

保健・医療・介護機関、地域包括支援センターと連携を図り、医師会かかりつけ医を中心にして、地域における認知症疾患の保健医療水準の向上を目的としています。



医療保健・福祉合同学習会(H26.7.30)

## 認知症疾患医療センターの業務



- ① 専門医療相談
- ② 鑑別診断・初期対応
- ③ 身体合併症・周辺症状への対応
- ④ 専門職の育成
- ⑤ 連携協議会
- ⑥ 情報収集・発信

以上6つの業務があります。

認知症疾患医療センターの役割のうち、①～③は当センターで行っています。

④～⑥の業務は宇和島医師会館を舞台に、かかりつけ医を中心に行政・事業者等と有機的につながる「おれんじネットうわじま」のネットワークのなかで活動しています。

定期的な学習会・研修会にも宇和島圏域のオレンジドクター(41名)の参加の呼びかけを行い、かかりつけ医の先生方とのパイプ連携を太くしていき、「行政」「介護」「住民」の垣根を越えたネットワークの拡充を目指していきたいと考えています。

お問い合わせ

愛媛県地域拠点型認知症疾患医療センター(公益財団法人 正光会 宇和島病院内)

専用電話 ☎0895-22-8020 (盛澤・清水) 対応曜日および時間 月～金曜(平日のみ) 8:30～17:00



# EVENTS & NEWS

1/29  
(木)

## 愛媛県障害者スポーツ大会

「第9回愛媛県障害者スポーツ大会(精神障害者バレーボール競技)」が開催され、支援センター柿の木の利用者さんが出場。楽しく熱心にプレーをされました。



3/1  
(日)

## 精神科看護研修会

「平成26年度第5回精神科看護研修会 看護研究論文発表」がウエルビア伊予(伊予市)で開催されました。当院から、看護師の稲葉幸実さんが演題を発表しました。



3/22  
(日)

## 西園先生研修会

宇和島病院にて、精神療法や精神分析などで著名な西園昌久先生を講師にお迎えし、事例検討会を行いました。



3/24  
(火)

## 継続教育研修

宇和島病院にて、入職3年目の職員による「継続教育研修 3年目症例発表会」が開催されました。日常業務のなかでの課題や症例を上げ、自分の取り組みにおける成果などを発表しました。この研修は、基礎知識・技術を学ぶことから始め、段階的に専門性を高めていくために実施しています。



## 医療安全対策室の新設

安全・安心かつ良質な医療を提供するため、医療事故防止や院内感染防止等の中心的な役割を担う『医療安全対策室』を開設しました。また、平成26年12月より「感染管理加算2」\*の算定を開始。感染対策チーム(ICT)が中心となって対策強化を図っています。

※患者・職員の安全・安心や医療の質の向上を目的に「感染管理加算2」を取得。感染対策チームを立ち上げ、院内感染対策のより一層の強化を図っています。感染防止の基本は、手洗いや手指消毒の実践です。感染から身を守りましょう。

## 5~9月 イベント 案内

精神保健福祉活動の輪を広げることを目的として、さまざまなイベントの開催し、地域のイベントへも参加しています。

5月27日(水) 青葉祭



8月29日(土) 予定 ふれあいの夕べ



5月27日(水)

青葉祭

6月14日(日)

正光会杯ソフトボール大会

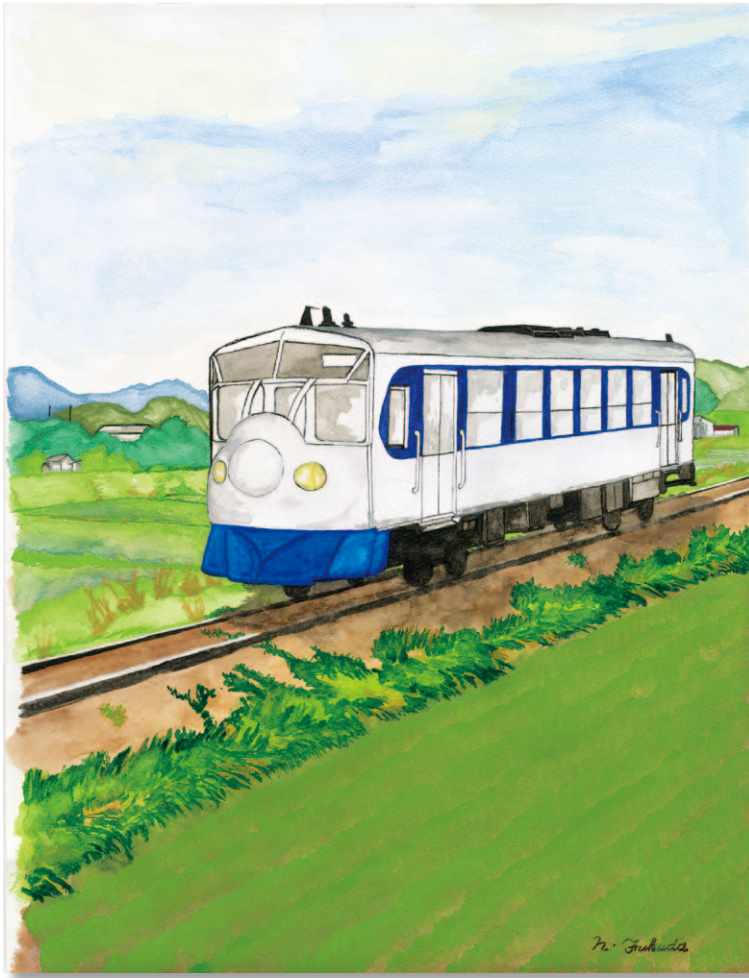
7月24日(金)

和霊大祭走り込み

8月29日(土) 予定

ふれあいの夕べ

「青葉祭」「ふれあいの夕べ」については、地域の皆さん・患者さんなど、どなたでもご参加いただけます。ぜひお越しください。詳しくは、当院ホームページをご覧ください。



### 『鉄道ホビートレイン』

予土線の全線開通40周年にあわせて、平成26年3月から、予土線宇和島(愛媛県)ー窪川(高知県)で、観光列車「鉄道ホビートレイン」が運行中です。この列車は、既存のディーゼル車両を初代0系新幹線に似せて改造したそうです。皆さん、日本一遅い“新幹線”はもうご覧になりましたか？



## 公益財団法人 正光会 宇和島病院

〒798-0027  
愛媛県宇和島市柿原1280番地  
☎0895-22-5622  
FAX.0895-24-1182



#### 交通案内(目安時間)

##### お車でのご来院

JR宇和島駅より、国道320号線経由 約9分

##### バスでのご来院

JR宇和島駅より、  
柿原行 変電所前バス停下車約1分



<http://www.shokokai-grp.or.jp/category/uwajima>

#### 正光会ロゴマークの紹介

正光会の理念をあらわす言葉「空と雲」。空は社会や公共を意味します。2つの雲は患者さんと職員。2つの雲をつなぐのがS字形の正光会です。

